

特定非営利活動法人 日本冒険遊び場づくり協会

第8回通常総会議案書

開催日時：2011年6月4日（土）14：00～16：00

開催場所：天白生涯学習センター 視聴覚室

(468-0027 天白区天白町大字島田字黒石 4050)

開 会

定数確認

代表挨拶

議長選任

議事録署名人選任

議 案

<決議事項>

第1号議案 2010年度事業報告および決算報告

<報告事項>

第2号議案 2011年度事業計画および予算

議長解任

閉 会

第1号議案 2010年度事業報告および決算報告

決議事項

事業ならびに決算報告は、各担当理事からの報告を取りまとめた資料「2010年度 事業報告」と事務局が取りまとめた資料「2010年度 決算報告」を参照して下さい。

■2010年度 事業報告

2010年度に日本冒険遊び場づくり協会は、01から09までの9つの事業に取り組んだ。その事業を俯瞰すると「会員と共に」「会員の相互交流・連係」という取り組みに大きな特徴がある。

具体的には、05全国研究集会、全国一斉遊び場開催をはじめとして、06冒険遊び場づくりの全国活動実態調査、08各地域の活動団体ネットワークづくり促進があり、07会員参画編集部によるN遊Sの制作、また「全国各地での冒険遊び場づくり活動の理念は、どのように発信されているのか？」を会員に問いかけた02冒険遊び場づくりの理念整理においても「会員との交換」に力点を置いた取り組みとして成果をあげることができた。

また一連の事業によって大きな予算が動いた年であったが、この経験を通じて会員相互の交流が促進され、若き世代や新しい出逢いが得られたことは何にも代え難い貴重な財産となった。

改めて言うまでもなく、協会は会員と共に存在し、ミッションはその共有の絆である。そこでここに改めて協会の掲げるミッションを再掲して、本年度の事業を振り返り協会の目指す想いと照らしながら会員各位の評価を仰ぎたい。

日本冒険遊び場づくり協会は、

「遊び あふれる まちへ！ー地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現」

をミッションに掲げて、

1. 遊び観・子ども観を世に問いかける
2. 冒険遊び場づくりの魅力をアピールする
3. 活動の展開ノウハウを開発する

を活動の指針としています。

01 財政基盤強化と事務局体制再構築

■事業目的：協会は、一人では成し遂げられないミッションを会員相互の協働で達成するシステム(体系)ならびに手段として設立された。その想いと活動を継続的に効果的に機能させていくために、特に財政基盤と事務局体制に重点をおいた強化策を検討する。

■実施体制：大村虔一、天野秀昭、石田太介、梶木典子、関戸まゆみ、古賀久貴、菅博嗣、根本暁生、三浦幸雄、細見佑子(事務局)。内容に応じて監事ならびに会計担当が協力。

■活動概要と成果：協会の財政状況は、事業経費の算出方法や積算体系の整理などの成果によって回復の兆しを感じさせるようになってきた。しかしながら、なお自立した協会運営のためには、引き続き会員拡大の努力が必要である。一方事務局は、事務量の負荷に応じた体制を取れなかった。これに対して次年度は、定期アルバイトを導入して応じる目処を得た。

また事務局体制の観点からは、第5回全国研究集会、初の冒険遊び場全国一斉開催、そして地域運営委員が核となって取り組んだ地域MAPづくりは、事務局業務の増大となっており今後の課題である。しかしながら、これらの事業では若い世代の活躍、新しい世代の登場、そして「小集まり」の展開もあり、会員相互の連係が従来の事務局への基礎的な問い合わせの軽減となることも期待される。

02 冒険遊び場づくりの理念整理

- 事業目的：「冒険遊び場づくりの理念（遊びあふれるまちへ!）」は、協会活動の基盤であり、会員ならびに社会との絆である。この理念をより一層社会に受けとめてもらいやすい構成と表現に整える。
- 実施体制：菅博嗣、斎藤啓子、古賀久貴（以上担当理事）、野下健、高橋利道（以上会員）
- 活動概要と成果：現在全国各地での冒険遊び場づくり活動の理念は、どのように発信されているのか？これを把握するために、本年度実施の第5回活動実態調査の項目に、各団体の理念・活動趣旨についての項目を設けた。その結果、「自分の責任で自由に遊ぶ」というモットーが多くの団体で掲げられており、また、「ケガと弁当は自分持ち」「自然の中で遊ぶ」「子育て支援」といった回答も多く見られ、各団体が工夫して地域社会へのメッセージを行っている、という概要を把握することができた。また、これまで「冒険遊び場づくりの理念」がどのように捉えられてきたかを把握するために、過去の全国研究集会資料（第1～4回）から、a.問いかけている課題、b.工夫している表現、c.交換している考え方、d.行動や提起、e.背景となる視点を読み込みはじめた。

03 収益事業の開発に向けた構想・試行

- 事業目的：継続的に安定した収入を見込むことができる収益事業は、協会の財政運営の安定化に向けた急務な取り組みの一つである。事業の検討では、全国規模の組織という協会の特性を生かした収益事業の在り方とその具体的な取り組みの見通しをつける。
- 実施体制：実績整理、会員アイデアの取りまとめ、収益事業戦略素案の作成：嶋村仁志、竹内乃璃妃、古賀久貴。原稿執筆：嶋村仁志。レイアウト等：デザイナーに依頼。
- 活動概要と成果：日本冒険遊び場づくり協会の特徴は、冒険遊び場づくりに関わるノウハウと全国規模の組織として発信力を持っていることにある。これを踏まえて本年度の収益事業の検討では、協会の特徴を活かすことのできる企画として、「これから冒険遊び場づくりを始めたい人や関係機関に必要とされる内容を、入門的ブックレットとして制作し販売すること」を検討した。

2009年度に本協会は、講演会15回、プレーパーク開催5か所、講座19回を実施した。ここで培われた冒険遊び場づくりに関わるノウハウを振り返りながら、子どもが遊ぶことへの理解や冒険遊び場づくりへの認知の向上、実践上で必要とされる具体的な情報など、現在12冊の仮タイトルを想定しながら、まずは1冊目の試行版の制作に取り組んだ。

ブックレットシリーズ

<知識シリーズ>

- ① 冒険遊び場の歴史 ② 冒険遊び場の運営 ③ 冒険遊び場初めの一步 ④ 冒険遊び場と子ども政策

<技術シリーズ>

- ⑤ 遊び場の冒険と危険（リスクとハザード）⑥ 遊具を作ること・点検・メンテナンス⑦ ロープを使う
- ⑧ 事故が起きたら（応急手当と事故の対応）

<姿勢シリーズ>

- ⑨ なぜ冒険遊び場なのか？⑩ 子どもの遊びに関わる大人の役割（大人化しない）
- ⑪ 子どもの遊びに関わる大人の役割（場をデザインする）⑫ 子どもの遊びに関わる大人の役割（人とつながる）

04 国への政策提言に向けた研究と行動

- 事業目的：子ども・子育てに関連する取り組みは、国の政策のほか、NPO、各種団体、学識経験者、企業経営者、政治家等が共同で政策を提言する動きも生まれている。冒険遊び場づくり協会は、一連の社会の動きを察知しながら地域住民と行政とのパートナーシップによる「子どもの育ち支援」に関する政策提言を行う。
- 実施体制：佐々木健二、嶋村仁志、三浦幸雄が、他団体と共同で政策提言する動きをつくる。政策提言は、地域運営委員や会員にも協力を得て取り組む。
- 活動概要と成果：本協会は、会員との関係を図りながら他団体等と共同で政策提言する動きにも参画する。本事業に関わるこれまでの取り組みには、3年前の次世代育成支援対策推進法後期行動計画の策定時期に、冒険遊び場づくりを広めるための提言書やマップを作成した実績がある。この資料は、全国各所の会員諸氏による地方公共団体等への提言活動の際に大いに活用された。そして後期行動計画や子どもプランなどの行政計画に冒険遊び場（プレーパーク）づくりが取り上げられるようになってきたことには、ある程度の成果は得られたと考えている。また国政における政権交代は、子育て応援団、市民キャビネット、JACEVO（日本サードセクター経営者協会）などNPOの横断的な動きを刺激して、「行政（国等）向けの」提言活動を進めやすい状況をつくった。なお国の政策は、3年後ぐらいに時限立法である「次世代育成支援対策推進法」の次を展望した新たな枠組みをつくる動きが始まると捉えている。

05 全国研究集会、全国一斉遊び場開催

- 事業目的：冒険遊び場づくり活動を行っている、あるいは関心を持ち始めた人・団体・行政が一堂に会して、報告、質問、意見交換をする3年毎の全国研究集会を開催する。また集会に先駆けて「子どもが遊ぶ、子育てできる地域、社会づくりへの提言ときっかけづくりとして、初の全国冒険遊び場一斉開催を企画展開する。
- 実施体制：関戸博樹、嶋村仁志、天野秀昭、（事務局）山田久美子・細見佑子・野下晃子・高橋利通、第5回冒険遊び場づくり全国研究集会実行委員会
- 活動概要と成果：「冒険遊び場全国一斉開催の日」、「記念講演」、「第5回冒険遊び場づくり全国研究集会」の3つの事業を行った。「冒険遊び場全国一斉開催の日」は、外遊びにおける閉塞感の打破と、冒険遊び場づくりという取り組みを社会へ広く知らしめるために、「もっともっともっと外遊び！」をテーマに掲げ、全国の活動団体に呼びかけて8月28日～30日に実施した。一斉開催は、168団体（参加団体119、賛同団体49）の協力で実現し、NHK、民放各局、五大新聞などにも大きく取り上げられ、冒険遊び場づくりの活動が、主体的に社会という環境に働きかけて変化させていくための先進的なプログラムをつくりあげることができた。

「記念講演」では、『人工化する子どもたち』をテーマに宮台真司氏を講師に招き、関東学院大学を会場として行い、208名が参加した。

「第5回冒険遊び場づくり全国研究集会」は、「外遊びが社会をひらく～もっともっともっと遊びを～」をテーマに掲げ、10月29日から31日まで横浜の野島青少年研修センターで開催し、全国各地より372人が参加した。大会準備は、2010年1月に一回目の実行委員会を呼びかけ、開催地の横浜や周辺地域のプレーリーダー、冒険遊び場づくりの

活動者を中心に計 33 名にも上る実行委員ボランティアによって 2011 年 1 月まで計 16 回の実行委員会が行われた。若者の参加が多く、世代交代が進んでいるよう感じられた。

プログラムは、基調講演、17 の分科会、地域運営委員による持ち込み企画、懇親会、全体会などを行い、分科会では、より質の高い冒険遊び場づくり活動を目指した学習やネットワークづくり、冒険遊び場づくりに関心を持ちはじめた人や団体（行政）への智慧の伝承、プレーワーカーのスキルアップ課題の整理、住民と行政とのパートナーシップのあり方に関する課題整理、子どもが遊ぶそして子育てできる地域社会づくりへの提言ときっかけづくりのイベントの企画開催提案などが企画され活気ある議論が交わされた。また、オプション企画として巨大テント設営ワークショップ（会場：野島公園キャンプ場、参加者：10 名）、近郊冒険遊び場見学ツアー（参加者：3 コース 60 名）を行った。研究集会の成果は報告書として 3 月に発行し、参加者や会員等に配布した。

実行委員会や集会全体を通して「次の開催にむけた 3 年間を意識する」ということに重きを置いてきつづけたために、集会後も各地での報告会や新たにたちあがった研修会などが活発に見られ、「次にむけた意識された 3 年間の始まり」につながる動きが生まれたと感じている。今後の取り組み課題には、日頃より冒険遊び場づくりの活動が何に取り組んでいくべきかという議論を行うこと、その議論の成果を 3 年に 1 度の集会で交換するという将来像が提起された。

06 冒険遊び場づくりの全国活動実態調査

- 事業目的：冒険遊び場づくり活動全国実態調査を実施し、我が国における冒険遊び場づくり活動の現状と時間変化を把握する。
- 実施体制：梶木典子、関戸まゆみ、根本暁生、細見佑子（事務局）
- 活動概要と成果：我が国の冒険遊び場づくり活動の実態を把握するために 2 種類の調査を実施した。それぞれの成果を整理すると次のようになる。

◇全国自治体対象の「冒険遊び場(プレーパーク)づくり事業への取り組みに関する調査」

全国の 47 都道府県、809 の市・特別区の冒険遊び場づくりの関連部署（青少年担当部署、児童福祉担当部署、公園担当部署、市民活動担当部署等）を対象に、留置自記法によるアンケート調査を実施。有効回収数は、都道府県 24 件（回収率 51.1%）、市・特別区 407 件（同 50.3%）、全体で 431 件（同 50.4%）であった。これによると冒険遊び場事業を実施している自治体の数は、過去 2 回の調査よりも多くなっている。また冒険遊び場づくりは、自治体が事業として継続しているばかりではなく、住民主体の運営へと移行しているところもみられた。

◇活動団体対象の「活動実態に関するアンケート調査」

日本冒険遊び場づくり協会が把握している全国 274 団体を対象に、留置自記法によるアンケートを実施。有効回答数 165 票（回収率 60.2%）であった。活動団体の数は、年々増加してはいるものの、活動休止や活動終了という団体もみられた。また活動頻度が多い団体が増加したほか、行政と何らかの連携をしている団体も増加している。さらに活動団体同士がネットワークを築いたり、協力している様子も明らかになった。

07 会員参画編集部によるN遊Sの制作

■事業目的：「遊びあふれるまちへ」を掲げる協会の機関誌である「N遊S」は、会員が参画する編集委員会で編集発行している。テーマには、全国の会員が冒険遊び場づくりに関わる「知りたい情報」「必要な情報」を特集で組んで取り上げている。

■実施体制：内山悠、小林アタル、宍戸香織、高子美典、谷居早智世、塚本岳、若山香里（以上会員からの公募編集委員）、齋藤啓子、関戸まゆみ、古賀久貴（以上担当理事）、細見佑子（事務局）が編集会議、取材、原稿作成、版下作成。企画内容によっては地域運営委員にも協力依頼。印刷は外部発注。

■活動概要と成果：今年度は、全国研究集会があったことから編集委員に加わる会員が増えた。また今年度より大村度一代表が各地へ赴いて話をする「もっと対話の会」にタイアップして小集まりを行なう機会をつくり、「N遊S」の新しい連載記事とした。

本年度発行の「N遊S」4号分の特集と概要は次のとおり。

- ◇第43号「協会は生き残ったのか!？」(7/5)：1年前の会費の改訂による決算結果の検証を行なう。大阪で開催された総会の報告と新しい地域運営委員の顔写真入りメッセージを掲載。◇第44号「ザ全国研究集会特集」(9/20)：集会への参加を呼び掛ける。8月末に行なった「冒険遊び場全国一斉開催の日」のレポートを掲載。◇第45号「全国研究集会でこんなに変わった!!」(12/15)：全国研究集会後の各地の動きを各地から報告。小集まりやリーダー会などへ広がった取り組みの様子を伝えることができた。◇第46号「これからの「事故」の話をしよう」(3/1)：事故をテーマにリスクとハザードの話を掲載。

08 各地域の活動団体ネットワークづくり促進

■事業目的：地域ごとに活動団体のネットワーク化を推進し連携することで、情報やノウハウの交換や人的交流を進めて冒険遊び場づくり活動を促進する。さらに各ネットワークの情報を協会が集約して全国で共有できる仕組みを作る。

■実施体制：石田太介、天野秀昭、梶木典子、関戸まゆみ、各地域の地域運営委員

■活動概要と成果：地域ごとの冒険遊び場MAPづくりは、当初全国9ヶ所で取り組む予定だったが、既に成果を挙げている地域もあることから、北海道、東北、東海、山陰、山陽の5ヶ所で行った。この地域ごとの冒険遊び場MAPづくりの取り組みは、地域ごとに「小集まり」を促すこととなり、その成果として各地域にて冒険遊び場ネットワークが生まれることにも繋がった。また完成したMAPは、会員への配布、各地域の冒険遊び場づくり活動推進への活用、また行政等に対する施策提言等に使用していった。

各地域の活動団体ネットワークづくりへの取り組みでは、「地域運営委員」が地域の冒険遊び場づくり活動団体に呼びかけて「小集まり」を開催し、地域ごとの冒険遊び場MAPづくりを進めた。

その結果、各地域の冒険遊び場づくりに関わる事情を反映したMAPづくりを行うことができた。この進め方は、従来の理事が中心となる事業推進ではなく、地域事情を知る地域運営委員や志のある会員が率先して事業を行う方法であったため、開かれた協会運営へと繋がる成果となった。

09 人材育成プログラム（遊育）の実施

■事業目的：プレーリーダー、運営に当たる市民、サポートする機関や行政担当者など、冒険遊び場づくりに関わる人材を育成する。子どもの遊びに関わる大人が、立場の違いによらず自分だからできる子どもの遊びへの支援を考え、遊びの環境に対する思いを実践することを目的とする。

■実施体制：天野秀昭、竹内乃璃妃

■活動概要と成果：「事故」をテーマとした遊育プログラムを開催したほか、冒険遊び場づくりの理念の普及と実践を目的として大正大学と連携した事業に取り組んだ。

◇遊育プログラム「事故について（幹枝編）」を実施

- ・日 時 2011年2月6日（日） 10時～17時
- ・場 所 島嶼会館第三会議室（東京都港区海岸1丁目4-7）
- ・参加者数 13名

「事故に対する考え方（講義中心）」「事故が起こったら（講義中心）」「事故をシミュレーションする（ワーク中心）」「事故を考える（討議中心）」の4コマで構成。（詳細は「N遊S46号」に特集として掲載）

参加者評価：自分の活動や取り組み姿勢の見直しにつながった、他。

◇子育て、子育てが楽になる講座（大正大学オープンカレッジと共催）

- ・日 時 7月1、8、15日各木曜日 90分×3回
- ・参加者数 14名（一般公募）

「子どもってな～に？」「教育・しつけ・どこまでやるの？」「ま、いっか！の子育て法」の全3回。

参加者評価：子育ての価値観が変わった、楽になった、他。

【参考：遊育プログラムは「根っこ編」「幹枝編」「葉っぱ花編」の3編を想定】

◇「葉っぱ花編」の試行

- ・期 間 2010年9月～2011年1月 270分×12回
- ・参加者数 14人（大正大学2年生）

大正大学「こども遊び創造サブコース」で、これまで構想してきた「葉っぱ花編」を初めて試行。今回は、「色と線の感情」「形と造形の感情」「音とリズムの感情」「身体と動きの感情」の4つから構成し、各分野の専門家に協力を依頼して行なった。

収支計算書

自 2010年 4月 1日
至 2011年 3月 31日 (単位:円)

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
【事業費】		【管理費】	
給料 手当(事業)	2,082,720	給料 手当	2,428,000
事業推進事務局費	0	法定福利費	269,750
事業委託費	583,968	福利厚生費	0
謝金(事業)	4,040,568	通信費	179,814
印刷製本費(事業)	1,149,165	印刷製本費	117,541
荷造 運賃(事業)	460,370	荷造 運賃	44,760
旅費交通費(事業)	3,133,946	水道光熱費	72,000
会議費(事業)	1,006,082	旅費交通費	235,240
備品消耗品費(事業)	370,467	広告宣伝費	0
保険料(事業)	58,099	会議費	49,508
租税公課(事業)	2,714	備品消耗品費	102,568
リース料(事業)	81,235	リース料	86,100
支払手数料(事業)	8,020	租税公課	5,000
雑費(事業)	4,000	支払手数料	39,555
商品仕入	489,671	雑費	3,000
棚卸資産増減額	△ 30,158		
事業費計	13,440,867	管理費計	3,632,836
		経常収入計	19,722,475
		特別目的募金	8,000
		収入の部合計	19,722,475
		支出の部合計	17,073,703
当期収支差額	2,648,772	次期繰越収支差額	6,940,076
		前期繰越収支差額	4,291,304
		TOTAL	24,013,779
		TOTAL	24,013,779

貸借対照表

2011年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部		正味財産の部	
科目	金額	科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】		【正味財産】	
(現金・預金)		未払金	973,260	正味財産	6,940,076
現金	1,648,552	前受金	46,000	(うち当期正味財産増加額)	2,648,772
普通預金	5,208,773	預り金	94,053	正味財産の部合計	6,940,076
郵便振替	1,070,740	仮受金	34,500		
未収金	558,950	【固定負債】			
(棚卸資産)		長期借入金	1,240,000		
棚卸資産	840,874	負債の部合計	2,387,813		
(その他流動資産)					
前払費用	0				
立替金	0				
仮払金	0				
流動資産合計	9,327,889				
【固定資産】					
(有形固定資産)					
固定資産合計	0				
資産の部合計	9,327,889	負債・正味財産の部合計	9,327,889		

財産目録

2011年 3月 31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	973,260
現金	1,648,552	前受金	46,000
普通預金	5,208,773	預り金	
郵便振替	1,070,740	源泉所得税	63,153
(売上債権)		社会保険料	30,900
未収金	558,950	仮受金	34,500
(棚卸資産)		【固定負債】	
販売用資産	840,874	長期借入金	1,240,000
(その他流動資産)			
前払費用	0		
立替金	0		
仮払金	0		
流動資産合計	9,327,889	固定資産合計	0
資産の部合計	9,327,889	負債の部合計	2,387,813
		正味財産	6,940,076

2010 年度部門別決算書

事業名	組織運営	基盤強化	理念整理	収益事業	政策提言	全国集会、 一斉開催	実態調査	N遊S	ネットワーク	遊育	合計
		事業01	事業02	事業03	事業04	事業05	事業06	事業07	事業08	事業09	
担当者		正副代表、 古賀、根本、 菅、三浦	古賀、菅、齋藤	嶋村、古賀、竹内	佐々木、三浦、嶋村	関戸ひ、天野、嶋村	根本、関戸ま、 根本、佐々木	齋藤、関戸ま	石田、関戸ま、 根本、天野	天野、竹内	

収入の部											単位:千円
会費収入	2,808										2,808
寄付金収入	1,954										1,954
受託事業収入	3,766				5			58		49	3,878
参加費収入	53					2,744					2,797
販売等収入	783					151					934
助成金収入						6,316					6,316
広告収入	25					1,000					1,025
震災募金	8										8
その他収入	1					1					2
収入合計	9,398	0	0	0	5	10,212	0	58	0	49	19,722
前期繰越											4,291
TOTAL		0					0		0	49	24,013
予算計上額	7,250	0	0	100	270	9,127	0	0	0	50	16,797

支出の部											単位:千円
(事業費)											0
給料手当						2,083					2,083
謝金	1,568					2,472					4,040
仕入れ	142					199		119			460
事業委託費	584										584
その他事業費	571				2	5,640		33		27	6,273
事業費合計	2,865	0	0	0	2	10,394	0	152	0	27	13,440
(管理費)											0
給料手当	2,428										2,428
法定福利費	270										270
その他管理費	935										935
管理費合計	3,633	0					0		0	0	3,633
支出合計	6,498	0	0	0	2	10,394	0	152	0	27	17,073
次期繰越											6,940
TOTAL											24,013
予算計上額	6,685	0	10	70	200	8,727	10	130	0	50	15,882

部門別収支差額	2,900	0	0	0	3	-182	0	-94	0	22	2,649
---------	-------	---	---	---	---	------	---	-----	---	----	-------

■注釈

<事業 05 全国集会関連事業>

・関連事業全体の収入は 1021 万円、支出は 1039 万円で、事業全体では 18 万円の赤字でした。(別紙資料 3 参照)

<事業 06 実態調査>

・収支ともに 0 となっておりますが、全国集会の一事業として実態調査を行い、54 万円が全国集会の経費として計上されています。

<事業 08 ネットワーク>

・収支ともに 0 となっておりますが、全国集会の一事業として「冒険遊び場マップ」を作成し、42 万が全国集会の経費として計上されています。

■2010 年度決算についての分析

協会全体の収支は、収入が 1972 万、支出が 1707 万で、単年度では 265 万の黒字となりました。これは会員の皆様の会費値上げに対するご理解をいただいたとともに、管理費支出の緊縮を継続したこと、受託事業収入が見通しよりも増えたこと、全国集会開催による寄付があったことによります。財政安定のために、組織運営部門(受託事業、販売事業、管理部門)では、会費収入>管理費を目指しており、2010 年度は会費収入 281 万円+販売 78 万円+そのほか 9 万円=368 万円で管理費 363 万円をまかなうことができました。

しかしながら、現状は事務局員に相当な負担がかかっており、事務局体制については今後も財務や業務の状況を注視しながら見直しを行っていく必要があります。

なお、3 月下旬より震災募金を開始しております。2010 年度決算時点においては 8 千円を計上しましたが、その後続々と善意が寄せられておりますことをあわせて報告いたします。

<全国集会および関連事業について>

関連事業全体の収入は 1021 万円（福祉医療機構からの助成金 632 万円、大正大学からの協賛金 100 万円、参加費等 289 万円）、支出は 1039 万円で、事業全体では 18 万円の赤字でした。

「冒険遊び場一斉開催」では、大正大学からの協賛金 100 万円を原資として、事業を展開し、チラシ、ポスター等の経費 30 万円の支出があり、70 万円の黒字でした。

「記念講演」では、参加費収入のうちの講演会チケット代金 26 万円を原資として事業を展開し、講師謝金、チラシ等の経費 22 万円の支出があり、4 万円の黒字でした。

「本集会」では、助成金と参加費の収入の合計が 896 万だったところ、支出は 987 万となり、92 万円の赤字となりました。

※事務局員の賃金は、一斉開催等にも関わるものであるが、便宜上「本集会」に含めた。

全国集会収支計算書

収入の部	科目	金額
	助成金収入	6,316,000
	本集会参加費収入	1,109,000
	オプション参加費収入	98,000
	宿泊費等収入	1,280,928
	販売収入	150,590
	受取利息収入	758
	合計	8,955,276

収支差額	△ 918,119
------	-----------

支出の部	給料手当	2,049,820
	謝金	2,352,564
	印刷製本費	843,869
	荷造運賃	360,555
	旅費交通費	2,588,530
	会議費	965,512
	備品消耗品費	368,536
	保険料	58,099
	リース料	81,235
	支払手数料	6,010
	あそびばーグッズ仕入	198,665
	合計	9,873,395

- ・宿泊費等収入には、食事代、懇親会の参加費を含みます。
- ・食事の経費については、会議費に513,054円の懇親会費等と謝金の中に調理師への謝礼176,000円を計上しています。

講師や実行委員等この事業に関わった方々から協会へ約 125 万円の寄付がありました。

■全国集会および関連事業の決算についての分析

広告収入（協賛金）として大正大学から 100 万円を得ることができたことなど、これまでにない新たな局面を生み出したことは評価できるが、事業全体で 18 万円の赤字となったことが大きな反省点として挙げられる。この主な原因は以下の 3 点と考えている。

- ① より多くの人に参加しやすいよう参加費設定を改定したことなど、事業全体の予算計画が不十分であった。
- ② 事業規模が大きく、助成金、協賛金、参加費などの複数の財源を使った事業であったが、用途に応じて使い分けが必要であったため、事業を 3 つに分けた結果、全体を十分に管理・マネジメントしきれなかった。
- ③ 事業内容の充実に重点を置いて、必要に応じた判断で謝金支出等を執行し、中途での状況把握ができていなかった。

専属事務局体制をしいたのにもかかわらず、担当者がまだ経験も浅く、会計に不慣れであることをサポートできなかった私たち担当理事の結果として重く受け止めている。

【参考資料】 2009 年度 第 2 号議案のトレース 会費値上げ後の協会の財政再建の取り組み

会員の皆様には、2009 年度総会の第 2 号議案「協会ミッションと新体制について」において、協会の経営状況と会費値上げのお願いをしなければならなかった背景を説明し、あわせて協会のミッションの再確認と新体制における取り組み方針について報告させていただきました。

あれから 2 年間、協会が財政再建に取り組んだ状況と結果についてトレースをして、参考資料をまとめましたので、報告します。

協会は、全国の冒険遊び場活動団体及び個人を支援する中間支援組織ですので、役割を果たすためには「事務局の維持管理等にかかる経費（管理費）」を確保しなければならないにも関わらず、2008 年度までの 4 年間の財政状況を振り返ってみると、「○：会費収入＋一般収入＞管理費」となった年度は全国研究集会を行った 2007 年度だけでしたから、構造的な問題点を抱えておりました。

2009 年度以降は、会員の皆さんに会費の値上げをお願いした上で、理事、地域運営委員の活動、そして会員の参画と事務局員の奮闘により、最低限の管理費をもって協会の運営を進めてまいりました。結果として 2 年連続して、「○：会費収入＋一般収入＞管理費」を達成することができ、更には次期繰越金として管理費相当分以上の額を確保できており、財政は健全な状況となりました。

しかし、2009 年度に会費収入目標額として示した、約 400 万円については未達成であり、継続して会費納入のお願い、新規の会員獲得、及び新たな一般収入の確保に取り組んでまいります。

表 1：協会会計（決算）の推移 (※11 年度は予算案) (単位：万円)

費目		05 年度	06 年度	07 年度	08 年度	09 年度	10 年度	11 年度※
収入の部	会費	140	140	110	190	318	281	288
	一般収入	240	220	910	240	230	672	463
	助成・受託	740	1,100	1,840	420	301	1,019	878
	前期繰越	390	200	280	470	185	429	694
	(TOTAL)	1,510	1,660	3,140	1,320	1,034	2,401	2,323
支出の部	事業費	690	1,000	2,070	470	276	1,344	1,016
	管理費	620	390	600	670	329	363	415
	次期繰越	200	280	470	180	429	694	892
	(TOTAL)	1,510	1,660	3,140	1,320	1,034	2,401	2,323
収支差額		-190	70	190	-290	244	265	198
(会費＋一般)－管理		● -240	● -30	○ 420	● -240	○ 219	○ 590	○ 336
主な行事				全国集会			全国集会	
一般収入＝寄付金＋参加費＋販売費＋広告収入＋その他				受託・助成収入＝受託事業収入＋助成金収入				
事業費＝事業給与＋謝金＋仕入れ＋事業委託費＋その他				管理費＝給料手当＋法定福利費＋その他				
繰越金＝期末（期首）現在の正味財産（＝資産－負債）				(端数処理は、万円単位を四捨五入し、合計金額優先とした)				
【(会費収入＋一般収入)－管理費】○：管理費の原資が充足（値が正）、●：不足（値が負）								

表2：会員数の推移及び会費収入

	正会員数		賛助会員数		会費収入 ※1		(参考) 改訂前※2
	個人	団体	個人	団体	予定金額	実績	
2009年度納入者数	201	73	16	1	288万円	318万円	192万円
2010年度会員数	215	83	13	0	310万円		204万円
2010年度納入者数	180	76	13	0	271万円	281万円	179万円
2011年度会員数※3	216	92	16	0	327万円	(288万円)	216万円

【2009年会費改定等】 正会員：個人会員 旧) 5,000円 ⇒ 新) 8,000円、 団体会員 旧) 10,000円 ⇒ 新) 15,000円
 賛助会員：個人 10,000円、団体 20,000円 (改訂なし)、購読会員 旧) 2,000円⇒新) 廃止
 ※1 会費収入：予定金額は当該年度会費予定額を示す。実績には他年度分の会費収入を含んでいる。
 ※2 (参考)改訂前：改訂前の会費額とした場合の当該年度会費予定額を示す。 ※3 2011年度会員数は4月25日現在

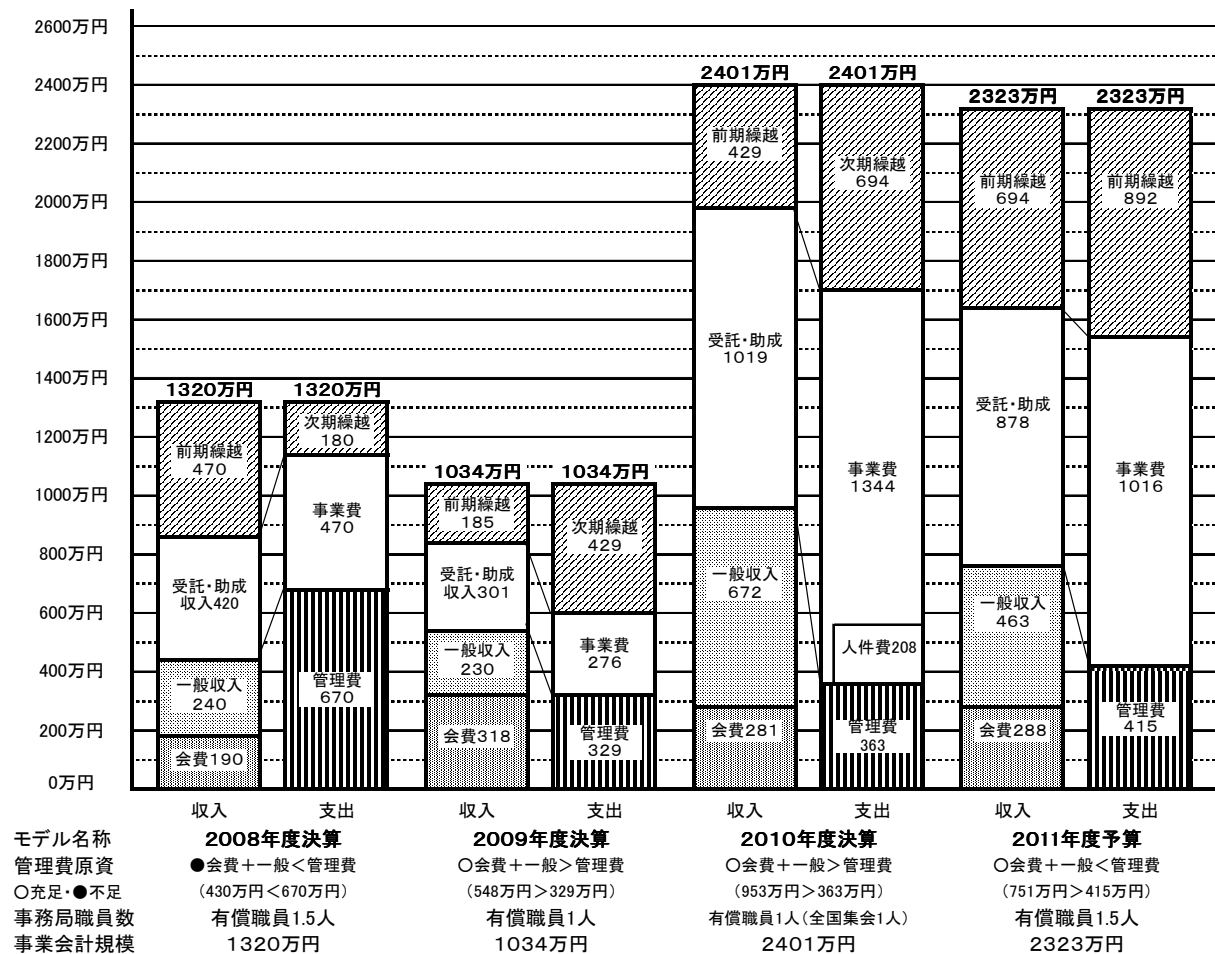


図1：協会の2008年度以降の収支の実態

【図の解説】 2009年度以降は、会費値上げについて会員の皆様のご理解をいただいた結果として、事務局職員1名を確保した上で、「○：会費収入+一般収入>管理費」となっており、財政的に健全な形となっています。おかげさまで、2009年度末で次期繰越金として429万円を確保することができ、事業助成(WAM)を受けられなかった場合でも全国研究集会を開催することを決断して、事前に呼び掛けを開始することが可能となりました。

2010年度は、管理費343万円の他に、全国研究集会の助成金の中から人件費218万円を確保して、かつ、会員参加による運営を行うことで全国一斉冒険遊び場の日や全国研究集会などの事業を進めることができました。

尚、2010年度末で次期繰越金として694万円を確保できたことから、2013年度に予定される次回の全国研究集会までの3年間を見据えて年度予算を組んでいきます。

2011年度事業計画および予算を報告します。

■ 2011年度 事業予算

2010年度の事業報告ならびに2011年度の事業計画策定作業の追い込みの最中、3月11日、東日本を襲ったM9の大地震、それに伴う未曾有の津波、原発事故とつづく連鎖被害で、国中が騒然となりました。以下に示す6つの事業を柱とするこの事業計画は、その最中に作成されました。

協会は、多くの会員の協力を得つつ、小さい協会本部で、実質的に大きい仕事をする方策を求めて、数年来2つの事業に取り組んでいます。「**中間支援組織体制の構築ならびに財政基盤の強化**」と「**会員参画編集によるN遊Sの発行**」がそれです。試行錯誤のところがあり、過度の負担がかかった部分もありますが、関係者の努力もあって、初期の目的に沿って改善されつつ、進められてきました。本年度もこれらの事業を継続します。参画する会員の意見を聞きながら、よりよい具体の手法の確立を図りたいと思います。

また昨今の冒険遊び場に寄せる地域住民や地方自治体の動向に対し、今年度も「**行政等との協働事業の実践と政策提言の検討**」と「**活動支援プログラムの整理と公開**」に取り組みます。これまでの実践活動を通して得た成果を、住民や自治体、企業、NPO向けにより分かりやすい情報として公開しようとするものです。これから活動しようとする方にはノウハウブックレットや協会の提供できる活動支援プログラムを提供します。施策の位置づけや最初の一步を見いだしかねている自治体には、協会からの政策提言や協会との協働事業の具体的進め方を提示します。共に活動するための、分かりやすい媒体の作成に、今、協会の周知を集める必要があり、みんなの協力が必要です。

遊びの大切さについてあまりよく認識されていないことが、協会活動の妨げになっています。先ず実際に子どもの遊ぶ姿、その目の輝きを見てもらう必要があります。昨年実施され成果のあった「**冒険遊び場全国一斉開催の日**」の啓発と普及事業を今年度も継続します。普段無関心でいる方々が、遊びに目を向け、その素晴らしさを実感してもらう日をつくりたいのです。同時に、全国各地でそれぞれの活動をしている人々の連帯感を強める効果も期待されます。みんなの知恵を出し合って、昨年より充実した全国一斉開催の日を実現したいものです。

今年度の新規事業に「**遊び場づくりによる震災復興支援**」があります。既に協会のメーリングリストやHPでご存知の方が多いと思いますが、多くの方々から支援金を得つつ、7月まで期間を限って行われる被災地気仙沼市大谷地区での遊び場運営です。復旧活動に忙殺され、取り残されるおそれのある次代の地域を担う子どもの心のケアを、経験のあるプレーリーダーの手で、自らを活性化させる本来の遊びを通して実施する短期のプログラムです。子どもにとってだけでなく、遊びに対する地域住民の再認識が得られれば、私たちにとってこの上ない成果となります。支援金をはじめとすご支援よろしくお願いたします。

次ページ以降に、本年度の6つの事業計画を記します。

01 中間支援組織体制の構築ならびに財政基盤の強化

- 実施体制**：担当理事【正副代表（大村、天野、石田、梶木、関戸まゆみ）、事務局担当理事（古賀、菅、根本、三浦）、広報担当理事（斎藤）】を中心に、会員有志に参画を募りプロジェクトによって事業を進める。
- 事業目的**：理念、ミッション（使命）、そしてビジョン（展望、目指す未来像）は、協会活動の基盤であり会員、社会との絆である。これをより一層受けとめられやすい構成と表現に整え、わかりやすい広報計画を構築する。
組織体制は、次期役員選出を見通しながら会員と協会のつながり、顔の見える地域ネットワークづくりを強化する。
財政基盤は、多様な資金調達（会費収入・寄付金収入の増加、収益事業の開発、事業受託の増加等）により安定化させる。
- 事業内容**：理念、ミッション、そしてビジョンは、これまでの表現の検証や整理や識者を交えた勉強会を通じて要約・整理し、広報計画を構築する。
大村代表が行く「もっと対話の会」を実施して地域のネットワークづくりを強化する。
また会員、地域運営委員、理事ならびに事務局の位置づけと役割を整理して協会の組織体制をわかりやすくする。
会費増加、事業収益の増収に向けた、ステークホルダーの検証、実現性のある取り組み、実施体制等を検討する。また寄付金収入の増加に向けた認定 NPO 法人化への検討を進める。
- 達成目標**：協会のミッション、体制、役割を整え、次期の役員候補を選出する。財政基盤として会費収入を前年比 20%増として認定 NPO 法人となる。
- スケジュール**：

4月～6月	冒険遊び場づくりの理念等の整理
4月～6月	認定 NPO 法人化の検討と申請
7月	識者を交えた組織理念の構築と課題に関わる勉強会の実施
6月～9月	中長期を見据えた協会経営ビジョンの構築
8月～10月	冒険遊び場づくりの理念等に基づく協会の広報計画の構築
9月～1月	協会の次期理事会体制の構築準備
10月～3月	「もっと対話の会」の実施（3回を予定）
1月～3月	理事会体制の次期への引き継ぎ
- 事業部門**：＜総務＞＜調査計画＞＜普及啓発＞＜組織運営＞＜人材育成＞

02 行政等との協働事業の実践と政策提言の検討

- 実施体制**：佐々木、三浦、嶋村、関戸まゆみ
- 事業目的**：日本冒険遊び場づくり協会は、『遊びあふれるまちへ』の実現に向けて国・地方自治体・経済団体・企業・NPO 等との連携を模索している。本年度も想定されるあらゆる機関・組織との関係のあり方ならびに関係づくりを行い、地方自治体との協働事業としての冒険遊び場づくりの展開モデルの構築を目指す。
- 事業内容**：日本冒険遊び場づくり協会は、東京都港区の冒険遊び場づくり事業を受託し「子どもを主体とした計画策定と住民と行政との協働運営」に取り組み、事業モデルの構築に繋げていく。

「屋外型子育て支援拠点の協働普及事業の連携協力事業」（特定非営利活動法人プレーパークせたがやとの連携協力）では、屋外型子育て支援拠点事業の全国への展開、普及を目指し、モデル事業、報告交流会、インタビュー調査等に協力する。また関係省庁との屋外型子育て支援拠点の協働普及事業検討委員会に参加し、継続的な事業の基盤整備を進める。

新しい政策提言活動に向けて、子どもの遊びに関するパブリックコメントには積極的に意見を発信するほか、国・地方自治体・経済団体・企業・NPO等との関係づくりを意識的に行っていく。

■達成目標：行政等との関係強化、政策提言情報の収集、パブコメへの発信、地域社会での合意形成、国土交通省と厚生労働省との検討会等により、冒険遊び場づくりの展開を考える。

■スケジュール：4月 取り組み課題と実施項目の整理適宜
9月・2月 国交省・厚労省担当を含む屋外型子育て支援拠点の協働普及事業検討委員会
9月～3月 全国5モデル団体の屋外型子育て支援拠点の活動強化
9月～3月 港区の事業対応（2カ所計12日間、現場開催、住民・行政との意見交換）
10月～1月 屋外型子育て支援拠点のインタビュー調査（全国7カ所）
2月 屋外型子育て支援拠点の報告交流会
3月 屋外型子育て支援拠点の協働普及事業報告書作成・配布

■事業部門： <普及啓発><相談支援>

03 「冒険遊び場全国一斉開催の日」の啓発と普及

■実施体制：関戸博樹、会員有志

■事業目的：「遊び」や「地域」との関わりの深い「冒険遊び場づくり」の実践は、近年の様々な社会問題や震災復興においても一つの社会的なメッセージとして注目されている。

日本冒険遊び場づくり協会は、今年度、最も行うに値する方法や時期などを考えながら、「冒険遊び場一斉開催の日」などの啓発活動に取り組む。

■事業内容：「冒険遊び場一斉開催の日」の啓発ならびに普及は、昨年度の全国研究集会がその後の全国各地での報告会などへの盛り上がりにつながった様に、開催後の展開を意識して計画していく。こういった意識を持って昨年の「冒険遊び場一斉開催の日」の課題や成果を分析すると共に、具体的な開催企画に向けて6月に行われる定期総会までに会員から意見や有志を募り、最も行うに値する方法や時期などを見出していく。

■達成目標：会員参画の企画として全国との一体感を相互に感じると共に、さらに多くの人の耳目に触れる機会として冒険遊び場づくりの仲間を増やす

■スケジュール：5月上～下旬 昨年度一斉開催の日の振り返り、今年度課題抽出、有志募集
6月～7月上旬 会員に今年度行う際の意見やアイデアを募る
9月～ 時期を設定して冒険遊び場一斉開催を実施

※随時：会員からの「やってみたい」という要望を実現するための機会をつくる。

■事業部門： <普及啓発><人材育成>

04 会員参画編集によるN遊Sの発行

- 実施体制： 齋藤、関戸、古賀、事務局（細見）、会員からの公募委員
- 事業目的：「N遊S」は、「遊びあふれるまちへ」を掲げる日本冒険遊び場づくり協会の機関誌である。
この機関誌の編集には、今後も会員の連携や各事業の促進を果たすために積極的に会員の参画を図っていく。
- 事業内容：年4回「N遊S」を発行。全国の会員が冒険遊び場づくりに関わる「知りたい情報」「必要な情報」を特集して取り上げる。
- 達成目標：今年度は、新たに会員参画型編集作業の実施体制の整備や、地域編集版（関西版）の新編集体制の構築に取り組む。
- スケジュール：

6月末	第47号発行
9月	第48号発行
12月	第49号発行
3月	第50号発行
- 事業部門： <普及啓発>

05 活動支援プログラムの整理と公開

- 実施体制：担当理事（古賀、嶋村、三浦）が事業を統括し、会員有志の参画によるプロジェクトチームが事務局と連携を図りながら事業を実施する。
- 事業目的：これまでの冒険遊び場づくりにかかわる相談ならびに支援事業において提示してきた基礎的な情報や知見を、関心を持つ人が理解しやすいようにわかりやすくまとめて提示する。また冒険遊び場づくりに取り組みはじめやすい情報として「活動支援プログラム」の内容を整理することで、相談や受託等への対応の効率化と事務局業務の負担軽減に繋げていく。
- 事業内容：情報と知見のまとめとしては、2010年度に引き続き、「ノウハウブックレット」の制作に取り組む。ブックレットの構成は、これから冒険遊び場づくりを始めたい人や関係機関に必要とされる入門的な内容を12冊の仮タイトル（3ページ参照）にまとめるもので、研修等のプログラムでの活用も想定している。
また「活動支援プログラム」づくりでは、冒険遊び場づくりにおいて想定される手順をまとめ、それぞれの段階での取り組みの見通しを示すとともに、各段階で協会が提供できる資料や支援プログラム等を整理して提示する。
- 達成目標：ノウハウブックレットを3冊発行し、冒険遊び場づくりの手順と協会が応じうる支援をまとめ、WEBサイトならびにリーフレットで周知する。
- スケジュール：

5月～7月	冒険遊び場づくりの手順、資料、支援プログラム等のまとめ 協会のホームページで成果を公開
7月～8月	冒険遊び場づくり支援プログラムの紹介リーフレット作成
5月～1月	ノウハウブックレットの作成発行（3冊）
- 事業部門：<相談支援><普及啓発><人材育成>

06 遊び場づくりによる震災復興支援

■実施体制：天野、梶木、根本

■事業目的：被災はじめ避難地域では、東日本を中心に甚大な被害を受けた震災により子どもがいきいきと存分に遊ぶことのできる環境が著しく損なわれている。日本冒険遊び場づくり協会は、遊び場づくりを通じて一連の震災による子どもたちの心身の負担回復および成長に寄与することを目的にかかげて、子どもにとって「遊び」が生きることそのものであり、その大切さを伝え広め、遊びに関わる大人や遊びの大切さを理解する大人を増やしていく事業に取り組む。

■事業内容：広範な被災地域について検討した結果に遊び支援の拠点となった気仙沼において、遊び場づくりを継続する。経験豊かなチーフプレーリーダーが交代で常駐しボランティアプレーリーダーを統括する遊び場づくりでは、遊び支援、地域の関連活動支援、地域コミュニティとの連携、プレーカー運用の模索等により復興を支える。

全国各地においても、避難してきている子どもたちを意識においた遊び場づくり活動を呼びかける。取り組み経過については、専用サイト、Twitter、Facebook、報告会等で社会につなげ、被災地の実態や取り組みへの理解、遊びの大切さへの理解を促し、現地ならびに若者の継続的な活動を模索する。なお、目標額 500 万円、募集期間 2011 年 6 月末までの特定目的募金「子どもの遊び場づくりによる震災復興支援金」を設け事業費とする。被災地支援を行う他の子どもの遊び支援活動団体と協力し、連携を行う。

■達成目標：遊びを通して被災した子どもたちの心身と地域に活力を回復し、遊び場づくりを通じて創造的な復興と全国の遊びの力への共感と理解を深める。

■スケジュール：4～7 月末 被災地の一つ気仙沼での活動。

要請に応じて被災地内の既存の冒険遊び場づくり活動団体等の支援。

6 月末まで 支援金の募集

8 月以降 被災地支援活動の報告会実施

4 月～ 復興支援に関わる協会の活動について、逐次、内容を発信する（ML、専用ポータルサイト、Twitter、Facebook など）

■事業部門： <重点事業><調査計画><普及啓発><相談支援><人材育成>

■ 2011年度 事業予算

収入の部

単位:円

		事業01 組織体制	事業02 行政との協働	事業03 普及啓発	事業04 N遊S発行	事業05 活動支援	事業06 震災復興支援	組織運営	合計
1	事業収入	25,000	0	0	54,000	216,000	0	870,000	1,165,000
2	受託事業収入	0	5,680,000	0	0	0	0	3,100,000	8,780,000
3	寄付金収入	0	0	0	0	0	3,000,000	490,000	3,490,000
4	会費収入	0	0	0	0	0	0	2,875,000	2,875,000
5	その他	0	0	0	0	0	0	0	0
	収入合計	25,000	5,680,000	0	54,000	216,000	3,000,000	7,335,000	16,310,000
	前期繰越							6,940,000	6,940,000
	総合計	25,000	5,680,000	0	54,000	216,000	3,000,000	14,275,000	23,250,000

支出の部

単位:円

		事業01 組織体制	事業02 行政との協働	事業03 普及啓発	事業04 N遊S発行	事業05 活動支援	事業06 震災復興支援	組織運営	合計
1	旅費・交通費	45,000	0	0	120,000	18,000	800,000	500,000	1,483,000
2	消耗品費	0	0	10,000	0	0	300,000	289,000	599,000
3	講師等謝金	130,000	0	0	55,700	156,000	1,500,000	0	1,841,700
4	使用料・賃借料	5,000	0	11,000	0	0	150,000	80,000	246,000
5	通信費	0	0	0	136,000	0	50,000	95,000	281,000
6	その他	200,000	4,771,500	4,000	185,260	200,000	150,000	774,300	6,285,060
7	受託事業	0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
8	給与・賞金 福利法定費	0	0	0	0	0	50,000	3,691,600	3,741,600
	合計額	380,000	4,771,500	25,000	496,960	374,000	3,000,000	7,629,900	16,677,360
	次期繰越								6,572,640
	総合計								23,250,000

※法定福利費は給与手当ての10%を計上